



頑丈な地盤の上に築かれているニューヨーク連銀ビル

ニューヨークの地盤と中央銀行

2024年4月、ニューヨーク市でマグニチュード4.8の地震が発生したことは当地の人々の記憶に新しいところです。外を歩いていれば気付かない人もいた程度の揺れではありましたが、この規模の地震は同地域では過去にほとんど例をみない珍しい出来事であったため、発生当初、少し騒然としていました。

ニューヨーク連邦準備銀行（以下、ニューヨーク連銀）に出向者として勤務している私は、当時、地

震多発国から来た者の務めと思い、余震に備えて同僚たちに身を守るための心構えを伝え、感心されたことをよく覚えています。

さて、地震と直接関連はありませんが、地盤ということでは、ニューヨーク市の地盤は、「ベドロック (bedrock)」と呼ばれる強固な岩盤が広域にわたって存在している点で特徴的だそうです。建物の基礎を支えるこの岩盤の存在によって、当地では

100年以上前から高層ビルを建てるのが可能だったとも言われています。

実は、このベドロックはニューヨーク連銀とも関わりがあります。ニューヨーク連銀は、連邦準備制度の代理として、他国の中央銀行や国際機関などが保有する金塊を保管する業務を行っており、銀行内の金庫には約50万本の延べ棒、重量にして約6000トンという極めて高重量の金が保管されています（2024年時点）。金庫がこの重量を支えることができているのも、地下に厚いベドロックの地盤があるからだそうです。

金融政策の運営をはじめ、多岐にわたる業務を行っている連邦準備制度ですが、その役割の発揮に欠かせない業務の安定性は、物理的な面からも確保されているようです。

（ニューヨーク連邦準備銀行）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



セントラルパークでもベドロックを観察できる